



連続テレビ小説「ばけばけ」で話題

小泉八雲と鉾子の漸

サカサバシラ

怪談といえ小泉八雲。明治にアメリカから日本へ移り住み、日本各地の民謡や怪談を英語で紹介しました。「耳なし芳二」「雪女」「ろくろ首」などが有名です。

マのアニメの流行など、脚光を浴びている怪談。この機会に、八雲と鉾子のつながりに、興味を持つ人が増えると嬉しいのですが。

妖怪も、忘れられたら出てこないと言います。実は一番こわいののは人の心なのかも。

妖怪も、忘れられたら出てこないと言います。実は一番こわいののは人の心なのかも。

紹介した民謡の中には「鉾子大漁節」も。「稲むらの火」の逸話も英語で紹介しています。「ばけばけ」やオカルトがテーマ

明治の松江を舞台に怪談を愛する小泉セツと八雲夫妻をモデルにした物語。

日本の怪談を世界に

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)

1850年、ギリシャ西部のレフカダ島で生まれる。1890年、松江にある島根県尋常中学校の英語教師に。1896年には松江の土族の娘、小泉セツと正式に結婚し、日本に帰化。1904年、新宿大久保の自宅で亡くなる(54歳)。翻訳・紀行文・再話文学のジャンルを中心に約30の作品を残しました。

【妖怪を紹介】

小泉八雲の妖怪画『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』より



フナユウレイ



ユキオンナ

ウミボウズ



フルツバキ

漁師の数え歌 鉾子大漁節

明治33(1900)年、『日本の古い民謡』の中で漁師の数え歌として歌詞を英訳。大漁を祝う囃子と力強い掛け声、波間に響く民謡は八雲が愛した日本の息づかいそのもの。

津波防災の学び 稲むらの火

「A Living God」として逸話を紹介。1854年、安政南海地震の際、稲むらに火を放ち村人を高台に導いた津波防災の話。主人公の五兵衛のモデルはヤマサ醤油の七代目濱口儀兵衛(梧陵)。

◀◀ 安政南海地震があった11月5日の避難訓練



ロクロクビ